

すみれ学級 1 組（自閉症・情緒障がい学級） 自立活動学習指導案

日 時：平成 29 年 1 月 13 日（月） 第 5 校時
場 所：すみれ学級 1 組教室
指導者：T 1 教諭 吉田久子
T 2 講師 中野由紀子

1 単元名 「コミュニケーション力を高めよう」 S S T（ソーシャルスキル学習）

2 単元について

（1）児童観

本学級の児童は、自閉症・情緒障がい学級に在籍する児童 6 人（2 年 1 人、3 年 1 人、4 年 4 人）である。コミュニケーションに関する実態は、次のとおりである。

（自立活動の 6 区分の 6 コミュニケーション）

（下線部分は支援が必要）

	コミュニケーションの基礎的能力に関すること 6- (1) (相手に伝えようとする力)	言語の受容と表出に関すること 6- (2) (言葉の明瞭さやあいさつする姿)	状況に応じたコミュニケーションに関すること 6- (5) (相手の立場や状況に応じた言葉の使い方)
A 児 (2 年)	・自分がやってみたいことや困ったことがあると、すぐに伝えることができる。友だちのスピーチに対して自ら質問をすることもできる。	・言葉ははっきりと出すことができるが、 <u>声量を調節することが難しい。</u> ・教室に入る際、止まらずに笑顔であいさつをすることができるようになった。	・ <u>相手の立場（別の人と会話をしているても）を考えずに平気で話しかけてしまうことがある。丁寧な言葉遣いをすることもあるが、つい友だちと先生の切り替えができないこともある。</u>
B 児 (3 年)	・ <u>困ったことがあってもなかなか自分から言うことができないが、作業が「終わりました、できました。」と伝えることはできる。</u>	・決まったあいさつ言葉は言えるが、声が小さく、聞き返されて泣くことがある。 ・教室に入るときは、立ち止まり、無表情ではあるがお辞儀をしてあいさつができる。	・パターン化した言葉は、使えるが、 <u>相手から質問されたときの返答に困るときは何も言えない。</u> ・ <u>自分の考えを相手に正しく伝えることは難しい。</u>
C 児 (4 年)	・友だちのスピーチに対して質問をすることができる。 ・困った時は、自ら伝えることができる。	・口を大きく開けることに抵抗がある。 ・はっきりと声を出さず伝わりにくいときがある。 ・教室に入るとき、止まらずに、動きながら、無表情であいさつする。	・情緒が安定しているときは自らあいさつできることがあるが、 <u>不安定なときは、無表情で周りからの声を聞き入れず黙っている。</u> ・ <u>他者の意図を理解することは難しい。</u>
D 児 (4 年)	・友だちのスピーチには、はっきりした声で、毎回質問をすることができる。 ・自分のスピーチの日は、家での出来事などを言うことができ、質問に対してもしっかり答えることができる。	・模範があると真似をしてあいさつの声も出し、言葉もはっきりしている。 ・教室に入るときや先生に会うと、自らあいさつをすることが増えた。	・ <u>自分がかけた迷惑で他者が困ることについては気付かず、謝罪が苦手である。</u> ・ <u>他者の意図を理解することは難しい。</u>
E 児 (4 年)	・友だちのスピーチに対して質問をすることができる。 ・困った時は、自ら伝えることができる。	・友だちの手本になるくらい自ら大きな声であいさつができる。	・ <u>相手が迷惑をかけたことについて、強い口調で注意し、反感をかってしまう。</u>

F児 (4年)	・困ったことがあってもなかなか自分から言うことができないが、作業が「終わりました、できました。」と伝えることはできる。 ・友だちのスピーチに対して、小さい声だが質問することができる。	・決まったあいさつ言葉は言えるが、声が小さく、聞き返されて泣くことがある。 ・教室に入るとき、少し止まってあいさつができる	・パターン化した言葉は、使えるが、相手から質問されたときの返答に困り何も言えないことがある。 ・他の先生方とすれ違ったときは自分からあいさつをすることが多い。
------------	--	--	--

このような実態から、6人ともそれぞれにコミュニケーション力に課題があり、コミュニケーションを円滑に行うことが難しいことがわかる。特に状況に応じたコミュニケーションに関すること（相手の立場や状況に応じた言葉の使い方）については、課題が大きい。

これまで、児童は、日常生活の中で、様々なトラブル場面を経験してきた。その度に、自分や周囲の行動を想起させ、整理しながら解決してきた。しかし、しばらく経つと、同じような場面で困ったり、固まったりしてしまい、「こんなときどうすればよかったのかな」と促されてやっと思い出すことの繰り返しである。受け身ではなく、自分のことと捉えて自分で何とかやってみよう、と思えるような指導を行っていく必要がある。

(2) 単元観

自立活動の個別の指導計画の中には、対象となる児童6人について、それぞれに課題に対して、個に応じた対応が必要であり、合理的配慮を行っていくことを記している。6人全員に共通する指導項目は、6「コミュニケーション」の(5)状況に応じたコミュニケーションに関することだった。これは、2「心理的な安定」3「人間関係の形成」と大きく関連するものだと考えられる。

本単元は、これまで自分に起きた様々な場面を振り返り、こんなときどんな伝え方をすればよかったのか、考え、気づき、今後の日常生活に生かそうというものである。

この6人の児童に対して、これまで自立活動の時間だけでなく、学校生活のいろいろな場面で「他者へ気持ちを伝える」適切なスキルを身につけるためのSSTをしてきた。しかし、学習したことを日常生活の中で活用することに課題があるため、今回の題材を設定した。

このことは、児童が今後もコミュニケーション力を高めるためには、繰り返しの経験が必要であり、人間関係の形成と大きく関わってくると考えられる。

(3) 指導観

指導に当たっては、次のことに留意する。

視点1 児童の困り感を減らし、達成感をもたせる授業改善

- 題材名や学習内容の流れを休み時間に提示し、安心して授業に参加できるようにする。
- 練習タイムでは、自分の表情や声の出し方を確認し、自信につなげるためにICT（タブレット端末）や鏡を活用しながら振り返る機会を設定する。
- 1学期に自分の身に起こった出来事を提示し、自分のこととして捉えさせる。主体的に困り感を減らそうと取り組ませることで達成感をもたせる。
- 自分で考える場面は集中させるために、教室内の場の工夫を行う。

視点2 「めあて」と「振り返り」の継続

- 実態や課題がそれぞれ違うので、練習タイムに入る前に、自分のめあてを決めさせ、振り返りを行うことで、自分ができたこと、もう少しだったことを意識させていきたい。
- 今回の授業を通して、「自分なりの伝え方」のポイントを知り、めあてをもち、自分で意識しながら取り組ませることで学習や生活に生かしたい。

【道徳教育との関連】

- 本単元は、人との関わりにおいてどのような振る舞いが好ましいのかを考えさせることにつながる。身近な人々と明るく接する中で、時と場に応じた作法に気づき、気持ちよく感じる体験を繰り返し行うことで、よい振る舞いを身に付けさせたい。〔B—(8)〕

【人権が尊重される授業づくりの視点】

視点：自己選択・決定の場を工夫し、設定する。

児童の実態を踏まえて個に応じた学習内容を提示し、自らめあてを決め、ICTや鏡を活用しながらめあてを達成する場を設定する。

3 単元指導計画

次	時	学 習 内 容	評 価 規 準	評価方法
1	1	あいさつ名人になろう 6－(1)	どんなあいさつがよいか自分で考え、練習することができる。	ワークシート 行動観察
2	1	自分の笑顔を友達に見せよう 3－(1)	笑顔で、友達に話しかけることができる。	行動観察
3	1 (特)	どんな伝え方がよいか考えよう 6－(2)・(5)	どんな伝え方がよいか自分で考え練習することができる。	ワークシート 行動観察

4 単元の評価規準

児童名	評 価 規 準
A 児 (2 年)	周りの様子を見て、自分の声の大きさを調節し、相手に応じた言葉遣いができる。 6－(5)
B 児 (3 年)	口を開けることを意識したり、柔らかい表情（できれば笑顔）で活動したりすることができる。 6－(2)
C 児 (4 年)	気持ちのコントロールを行い、安定した状態で授業に参加し、口を開けて伝えようとすることができる。 6－(2)
D 児 (4 年)	自分の言動が他者に迷惑をかけていることに気付き、他者の気持ちになって考え伝える練習ができる。 6－(5)
E 児 (4 年)	気持ちのコントロールができ、声の大きさの調節を行い伝える練習ができる。 6－(5)
F 児 (4 年)	口を開けることを意識し、相手に伝わる声で、伝える練習をすることができる。 6－(2)

5 本時の学習

(1) 全体目標

どんな伝え方がよいか自分で考え練習することができる。

(2) 個人目標

	個 人 目 標
A 児 (2 年)	どんな伝え方がよいか自分で考え、練習することができる。 6－(5)
B 児 (3 年)	どんな伝え方がよいか自分で考え、鏡を見て練習することができる。 6－(2)
C 児 (4 年)	どんな伝え方がよいか自分で考え、口の開け方を意識して練習することができる。 6－(2)
D 児 (4 年)	どんな伝え方がよいか自分で考え、タブレット端末で練習することができる。 6－(5)
E 児 (4 年)	どんな伝え方がよいか自分で考え、タブレット端末で練習することができる。 6－(5)
F 児 (4 年)	どんな伝え方がよいか自分で考え、口の開け方を意識して練習することができる。 6－(2)

(3) 展開

過程	時間	学習活動及び指導上の留意点	予 想 さ れ る 各 児 童 の 反 応 と 個 に 応 じ た 支 援						備考		
			A 児 (2 年)	B 児 (3 年)	C 児 (4 年)	D 児 (4 年)	E 児 (4 年)	F 児 (4 年)			
つかむ	10	1 本時の学習を知る。 ○1時間の見通しをもたせることで、意欲を高めさせるようにする。 2 本時のめあてを知る。 3 「見る・聞く練習」をする。 (フライングクイズ・リズム打ち) ○楽しみながら集中して見ることの大切さに気付かせる。 ○ゲームを通して聞くことの大切さに気付かせる。 4 言葉の体操をする。 ○口をしっかりと開けて言葉を出させるようにする。	・きょうの自立活動は、どんな活動をするのか、楽しみだな。	・きょうの自立活動は、どんな活動をするのかな、少しきんちょうするな。	・今日の自立活動は、どんな活動をするのか、楽しみだな。	・今日の自立活動は、どんな活動をするのか、楽しみだな。	・今日の自立活動は、どんな活動をするのか、楽しみだな。	・今日の自立活動は、どんな活動をするのかな、少し緊張するな。	帽子 造花 ボール 言葉の体操の絵		
		どんなつたえ方がいいか、考えよう						・楽しいなあ。でも間違えるかもしれないな。 ・先生の声を集中して聞こう。楽しいなあ。		・楽しいなあ。間違えずにできるかな。 ・先生の声を集中して聞こう。楽しいなあ。	・少し間違えたけどイライラしないよ。 ・先生の声を集中して聞こう。間違えても切り替えよう。
考える	10	5 各自、自分に合った場面について考える。 (1)場面を把握する。 (2)その時の自分と相手の気持ちを表情図カードで考える。 (3)どうすればよかったのか、考える。	先生にお礼を言う場面	困ったことを先生に伝える場面	八つ当たりする場面	間違ってエプロンを取った場面	友だちに注意する場面	借りた本を返す場面	個人に合った場面 表情図 カード タブレット端末 電子黒板 鏡 タブレット端末		
		・友だち言葉は先生に使っていいのかな。 ・どうすればよかったのか自分で考えよう。 ・めあてを自分で考えて発表しよう。	・何も思わずに通るすぎたと思うな。 ・どうすればよかったのか自分で考えよう。 ・めあてを自分で考えて発表しよう。	・相手の気持ちはわからないな。 ・どうすればよかったのかしっかり考えよう。 ・めあてを自分で考えて発表しよう。	・相手の気持ちを考えるのはむずかしい。 ・どうすればよかったのかしっかり考えよう。 ・めあてを自分で考えて発表しよう。	・相手の気持ちを考えるのはむずかしい。 ・どうすればよかったのか、しっかり考えよう。 ・めあてを自分で考えて発表しよう。	・借りたから返しただけなのにどうしてよくなかったのかな。どうすればよかったのか、しっかり考えよう。 ・めあてを自分で考えて発表しよう。				
		・みんなの前で上手にできるかな。自分の伝え方をテレビで見ることができてよかった。 ○モデリングでできなかった所(声の大きさ・表情など)を中心に練習を行わせる。	・前でモデリングをしている友だちの様子をしっかりと見よう。 ○口の開け方を中心に言葉かけを行う。できるようになったら笑顔に挑戦させる。	・前でモデリングをしている友だちの様子をしっかりと見よう。 ○タブレット端末で自分の口元を中心に録画・再生を繰り返させる。	・前でモデリングをしている友だちの様子をしっかりと見よう。 ○タブレット端末で練習させる際に相手のことを考えて言えるように言葉かけを行う。	・みんなの前で上手にできるかな。自分の伝え方をテレビで見ることができてよかった。 ○声の大きさの調節について助言を行う。	・前でモデリングをしている友だちの様子をしっかりと見よう。 ○タブレット端末で自分の口元を中心に録画・再生を繰り返させる。				
		評価 B どんな伝え方がいいか自分で考え、練習することができる。	評価 B どんな伝え方がいいか自分で考え、鏡を見て練習することができる。	評価 B どんな伝え方がいいか自分で考え、口の開け方を意識して練習することができる。	評価 B どんな伝え方がいいか自分で考え、タブレット端末で練習することができる。	評価 B どんな伝え方がいいか自分で考え、タブレット端末で練習することができる。	評価 B どんな伝え方がいいか自分で考え、口の開け方を意識して練習することができる。				
深める	10	9 発表タイム ○発表の順番を配慮する。	○本番では声が小さくなるので、発表前には、視線や表情について助言する。	○緊張して固まることを予想されるので、挙手を待って指名する。	○早く言いたい気持ちがあるので、早めに発表させる。	○相手の気持ちを考えながら発表するよう助言する。	○声の大きさに気をつけることを発表前に伝える。	○途中で言えなくなることも予想されるので、挙手を待って指名する。			
		10 本時の振り返りをする。 ○めあてが達成できたか考えさせる。 ○発表を頑張った友だちを紹介させる。	・上級生の発表の仕方はお手本になるな。丁寧な言葉づかいをしよう。	・上級生の発表の仕方はお手本になるな。笑顔で伝えられるといいな。	・発表の仕方は お手本になったかな。口を開けることをこれからもがんばろう。	・発表の仕方は お手本になったかな。相手の気持ちを考える伝え方は難しいな。	・友だちの発表の仕方はお手本になるな。次は頑張ろう。	・発表の仕方は お手本になったかな。笑顔で伝えることは難しいな。			
振り返る	5										